[チーム研究 7] 母子保健・福祉を中心とする地域組織活動の評価に関する研究(主任研究者 斎藤 進)

地域組織活動の評価に関する研究(1)

- メンバーの活動成果指標について -

母子保健研究部 齋藤 進 研究企画・情報部 小山 修・中村 敬 山口 忍(順天堂医療短期大学)

【要約】 地域組織の活動を評価するための活動成果指標を作成することを目的に、全国の 1/3 の市町村を抽出し、その保健師を対象に、郵送調査法で活動実態および活動成果についての調査を実施した。活動成果項目の因子分析により活動成果指標を作成し、指標と活動実態との関連性について分散分析を行った。その結果、①地域の人とのつながり、②地域社会への貢献、③運営の障害、④健康づくり行動、⑤専門職・行政との関係の5つの活動成果指標を作成した。また、「地域の人とのつながり」と「地域社会への貢献」については、活動における「リーダー、メンバー間の情報の流れ」や「メンバーと活動時の雰囲気」についてなど多くの項目で関連がみられた。これらから、この活動成果指標を使用して活動レベルや活動評価を測定することは、有効であることが示唆された。

【見出し語】 地域組織 活動評価 活動成果指標

Research on the Evaluation of the Activities of Community Organizations (1) -Achievement index of member activities-

Susumu SAITO, Osamu OYAMA, Takashi NAKAMURA, Shinobu YAMAGUCHI

[Abstract] In order to create an achievement index for the evaluation of the activities of community organizations, 1/3 of the cities, towns and villages in Japan were sampled, and a postal survey implemented targeting public health nurses regarding the substance of their activities and the achievements of these activities. An activity achievement index was created using factor analysis of the activity achievement items, and analysis of variance was performed on the relationship between the index and the substance of the activities. As a result, 5 activity achievement indexes were created: 1, connection to regional people; 2, contribution to regional society; 3, management and difficulties; 4, health-promoting actions; 5, relation to profession/administration. Further, with regards to "connection to regional people" and "contribution to regional society", connections were seen in many items, such as "information flow between leaders and members", "mood when working with members", etc. within the activities. It is suggested that use of this achievement index would be effective if used at the activity level and for activity evaluations.

[Keywords] community organizations, activity evaluation, activity achievement index

1. 研究目的

近年、数値による目標管理の考え方が行政に導入され、行政評価が盛んになっている。健康づくりにおいても、健康日本 21、健やか親子 21 に導入され、具体的な目標値を決めてすすめられている。「健康日本 21」では、評価という作業を重要な部分としており、その母子保健版である「健やか親子 21」においても同様である 1) 2)。評価には、内部評価と外部評価という評価主体別の分類、事前評価、経過評価、事後評価という評価時期によるものや影響評価、結果評価などに分類されている 3)。

一方、健康づくり活動の評価には、住民参加の一 形態である地域組織活動が必須要件となっている4。 健康づくり(保健)活動への住民参加は、サービス 効果を高めることは広く知られている。しかし、評 価事例の多くは、地域組織の参加の有無のみに注目 し、当該組織の活動支援や活動内容まで踏み込んだ 評価は少ない。その結果、行政サービス効果のみに 目が奪われて、人々の本来のニーズとのズレや評価 値の見直し、再計画、再実践につなげないで終わっ てしまうこともある。

そこで、地域組織活動を数値による評価指標を策定することによって、健康づくりサービスの効率性当該地域組織活動の活性化を図るために有効であると考えられる。

本研究は、市町村における母子保健・福祉領域で活動する地域組織の活性化と支援のポイントを明らかにするために、活動の評価方法の一つとして、活動者が、活動によって得られた成果を測定する指標(活動成果指標)を開発することを目的とした。

Ⅱ. 対象および方法

(1)調査対象および方法

今年度は、市町村における地域組織の支援担当者、 つまり保健師を対象とした。調査対象自治体は、全 国の特別区を除く市町村の1/3を抽出した1.058か 所(人口 10 万人以上の 62 市、5 万人以上 74 市、5 万人未満 76 市の計 212 市、659 町、187 村)で、調査票を用いた郵送調査法で実施した。

調査内容は、大別すると、対象市町村および回答者の属性、担当組織の活動実態、活動成果の尺度化項目の3領域で構成した。

保健師の担当する地域組織の活動実態は、組織形態や活動対象、メンバー数、地域組織と行政の関係など組織構造に関する項目および活動実態をとらえるための項目として、①各種事業や会議等への参加状況、②リーダー、メンバー、住民間の(活動に関する)情報の流れ、③予算や事業計画立案等の組織運営、④メンバーと活動時の雰囲気の4分野で構成した。

また、支援者(行政・専門職)からの評価として、 自主的活動度や目的達成度等を保健師による活動評 価とした。

地域組織メンバーの活動による成果(活動成果指標)の析出のための項目については、既存の調査や聞き取り調査に基づいて、活動して良かったこと、変わったこと、困ったことなどをもとに質問項目を作成した4。なお、活動成果は、ポジティブ、ネガティブを問わずに尺度化とすることにした。

(2) 分析方法

回収した調査票のうち、担当組織についての回答が記載された 363 票(有効回答率 34.3%)について分析を行った。

活動実態については、回答肢ごとにその度数を求めたが、活動成果指標との分散分析に用いる都合上、一部で回答肢を統合した。また状況を比率(%)で回答を得た項目については、5段階(1%以上~20%未満、20~40%、40~60%、60~80%、80%以上)に分類した。

活動状況のうち、自主的活動状況については、行政への依存状況(回答肢選択)と自主的活動度(%)の5段階評価に分けたデータを用い、 χ^2 検定により関連性を確認し、データの信頼性を検討した。

斎藤他:地域組織活動の評価に関する研究(1)

活動によって得られたこと(以後、活動成果という)は、因子分析を行った。次に各因子の信頼性をクロンバックの α 係数を用いて検討し、項目の整理を行い、最終的な活動成果を算定する項目を決定した。それぞれの項目の回答肢は、「非常によくあてはまる」「少しあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「まったくあてはまらない」の6件法を用い、その各活動成果の得点は、「非常によくあてはまる」=6点から「まったくあてはまらない」=1点までとし、合計得点を算出した。活動成果間の関連はピアソンの相関係数を求めた。

活動成果指標を用いることの有効性については、 各活動成果指標の得点と活動との関連性について活動実態等を独立変数とした一元配置分散分析により 検討した。

Ⅲ. 結果

(1)分析対象の特徴

分析対象の市町村区分について、市(24.8%)、町(60.1%)、村(15.2%)の比率は、調査サンプルの市(20.0%)、町(62.3%)、村(17.7%)とほぼ同様の割合となっており、偏りは少なかった。人口規模については、「1万~5万人未満」が42.4%と最も高く、また5,000~1万人未満(22.6%)、5,000人未満(19.6%)をあわせた8割以上が5万人未満の市町村であった。母子保健地域組織の活動(母子保健推進員と愛育班の活動の有無)は、「両方なし」が47.9%と最も高く、次いで「母子保健推進員あり」が36.1%と高く、「愛育班あり」(9.9%)、「両方ともあり」(4.4%)であった(表1)。

回答者は、「保健師」(92.8%) がほとんどを占め、「栄養士」(5.0%) や「その他」(2.2%) は 1 割に満たなかった。回答者の年齢構成は、「30 歳代」(32.8%) が最も高く、次いで「40 歳代」(29.7%)、「20 歳代」(22.2%)、「50 歳代」(14.7%)、「60 歳代」(0.6%) であった(表 2)。

次に分析対象となった地域組織の特徴を概観する (表3)と、組織の形態については、「委員型(母子 保健推進員会、保健協力員会等)」(43.5%)が高く、 次いで、「ボランティア/行政育成型(食生活改善推 進協議会等)」(29.2%)で、愛育班のような地縁型 や子育てグループのような当事者の地域組織は低か った。主な活動領域は、「保健」(73.3%)が最も高 く、次いで「保健・福祉」(19.8%) であった。活動 対象は、「住民全体」(41.0%)が最も高く、次いで 「母子」(30.6%)の順で、両者で7割を占めていた。 地理的活動範囲は、「市町村内全域」(82.6%)が8 割余りを占め、「特定の地域(小中学校区や地区な ど)」(12.7%) は 1 割余りであった。活動メンバー 数は、「20人~50人未満」(38.3%)が最も高く、以 下「20 人未満」(23.4%)、「50 人~100 人未満」 (20.4%)、「100人以上」(16.5%)の順であった。 規約や会則については、「あり」(81.8%)が8割で、 総会についても「開催している」(79.6%)が約8割 と高率であったが、行政との関係では、「行政に依存 している」(44.4%)、「かなり依存している」(36.8%) が高く、「行政への依存は少ない」(18.8%) が約2 割と低かった。

(2)対象地域組織の活動実態

活動実態は、①各種事業や会議等への参加状況、②リーダー、メンバー、住民間の(活動に関する)情報の流れ、③予算や事業計画立案等の組織運営、④メンバーと活動時の雰囲気 の4分野で構成した。まず、各種事業への参加状況は、当該地域組織が主催する事業への参加は、「よく参加している」(38.5%)、「事業によってことなる」(38.5%)が同率で高く、次いで「一部の人のみ参加している」(19.5%)であり、他組織との協力事業への参加率は、「80%以上」(44.2%)が最も高く、「60~80%未満」(14.3%)、「40~60%未満」(15.3%)、「20~40%未満」(15.0%)がほぼ同率であった。行政が参加を呼びかけた事業への参加状況は、「80%以上」(27.4%)、「20~40%未満」(24.4%)、「40~60%

未満」(22.2%)が約 2~3 割を占め、「60~80%未満」(14.4%)、「~20%未満」(11.5%)がそれぞれ1割余りであった。会議への出席状況は、「80%以上」(49.2%)が最も高く、次いで「60~80%未満」(27.8%)であった。研修会への参加は、「半分程度」(42.7%)が最も高く、次いで「ほとんど参加」(30.6%)で、「あまり参加していない」(9.2%)は低かったが、「研修会はしていない」(17.5%)という回答もみられた。(表4)

リーダーのメンバーへ情報伝達については、「伝え

ている」(51.1%)、「内容によって時々伝えている」

(35.8%) が高く、「伝えていない」(5.4%)、「わか らない」(7.7%) は低かった。逆にメンバーがリー ダーへ意見や疑問を伝えることができるかどうかに ついてでは、「できる」(48.4%)、「できたり、でき なかったり」(35.7%)が高く、「できない」(4.5%)、 「わからない」(11.3%) は低かった。住民への広報 や PR については、「している」(85.6%) 組織がほ とんどで、住民の意見や要望を聞く活動については、 「している」(53.6%)が5割を越えていた。しかし、 住民の認知度については、「少し知られている」 (60.9%)が高く、以下「かなり知られている」 (21.9%)、「あまり知られていない」(16.9%)、「ま ったく知られていない」(0.3%) は低かった。また、 活動に住民の意見を反映しているかどうかについて は、「やや反映している」(66.6%)、が高く、以下「あ まり反映していない」(21.9%)、「よく反映している」

会費の徴収については「集めている」(42.5%) と「集めていない」(50.8%)が約 4~5割で、若干「集めていない」が高かった。行政からの補助金について、「補助金あり」(59.4%)が6割と高かった。予算決算については、「全部行政でしている」(41.6%)が最も高かったが、「全部行政でしている」、「7、8割、行政がしている」(13.3%)をあわせた行政依存群と「全部自分たちでしている」(21.1%)、「ほぼ自分たちでしている」(17.3%)の自主群でみ

(10.4%)、「全く反映していない」(1.1%)の順で

あった。(表 5)

ると、若干「行政がしている」の割合が高かった。 事業計画の立案については、「全部行政でしている」 (25.0%)と「7、8割、行政がしている」(23.9%) で約5割を占め、「ほぼ自分たちでしている」(22.8%) と「全部自分たちでしている」(12.6%) は3割余 りであった。行政からの事業委託は「なし」(74.2%) が高かった。(表6)

メンバーは活動目的、役割、方法を理解しているかどうかについては、「半分くらいわかっている」(50.9%)が高く、次いで「よくわかっている」(34.8%)であった。リーダーはメンバーの意見を尊重しているかどうかについては、「している」(77.2%)が高かった。リーダーとメンバーとの信頼関係は、「ある」(69.0%)が高く、事業や会議の時の雰囲気については、「メンバーは楽しそう」(65.0%)、「みんなが発言できる会議の雰囲気あり」(65.8%)も同様に高率であった。(表7)

(3)保健師からみた活動状況の評価

保健師からみた活動状況としての自主的活動度は、「 \sim 20%未満」(22.3%)、「20 \sim 40%未満」(22.0%)、「 $40\sim60$ %未満」(21.1%)、「 $60\sim80$ %未満」(16.5%)、「80%以上」(18.0%) それぞれ 2 割前後と同率傾向を示していた。

活動目的の達成度は、「60~80%未満」(33.4%)がもっとも高く、以下「80%以上」(26.3%)、「40~60%未満」(24.4%)、「20~40%未満」(12.8%)、「~20%未満」(3.1%)の順であった。自主的な活動が展開されていないと思うことがあるかどうかについてたずねると、「時々ある」(49.9%)が高く、次いで「ある」(30.1%)、「ない」(20.1%)の順であった。(表8)

なお、この自主的活動が展開されているかどうかと自主的活動度には、有意な関連(χ^2 =149.935 df=8、P=.000、ガンマ=.675)がみられた。また、自主的活動度と分析対象の特徴で示した「行政との関係(行政への依存度)」間にも有意な関連(自主活動度を4カテゴリにした場合、 χ^2 =130.120、df=6、

(4)活動成果指標

活動成果 32 項目の因子分析の結果を表 9 に示した。この結果から、活動成果の第一因子を「地域の人とのつながり」、第二因子を「地域社会への貢献」、第三因子を「運営の障害」、第四因子を「健康づくり行動」、第五因子を「専門職・行政との関係」と名づけ、活動成果指標とした(表 10)。各指標のクロンバックの α 係数は、「地域の人とのつながり」($\alpha=.94$)、「地域社会への貢献」($\alpha=.89$)、「運営の障害」($\alpha=.82$)、「健康づくり行動」($\alpha=.86$)、「専門職・行政との関係」($\alpha=.82$)の五つとも .08 以上で、尺度としての信頼性が確認された。

そこで、各成果指標の得点を算出すると、「地域の人とのつながり」30.6 (SD=5.6)、「地域社会への貢献」25.1 (SD=4.8)、「運営の障害」18.3 (SD=4.6)、「健康づくり行動」17.0 (SD=3.7)、「専門職・行政との関係」7.7 (SD=2.2) であった。

また、成果指標間の相関係数は、「地域の人とのつながり」と「地域社会への貢献」が .64 (P<.001)、「地域社会への貢献」と「健康づくり行動」が .53 (P<.001)、「運営の障害」と「専門職・行政との関係」が .48 (P<.001) で、強い相関がみられた (表11)。

(5)組織・活動状況と活動成果指標との関連

担当組織の活動実態として、組織形態および活動状況(①各種事業や会議等への参加状況、②リーダー、メンバー、住民間の活動に関する情報の流れ、③予算や事業計画立案等の組織運営、④メンバーと活動時の雰囲気)、支援者(行政・専門職)からの評価(自主的活動度、目的達成度等)の各項目を変数として分散分析を行った結果、各回答グループの活動成果指標の平均値および検定結果は結果、表 12、13 のとおりであった。

活動成果指標について順にみると、「地域の人とのつながり」については、21の変数に有意な差があり、

②「リーダー、メンバー、住民間の活動に関する情報の流れ」および④「メンバーと活動時の雰囲気」の全項目、そのほか「組織形態」「地域組織と行政の関係」、「主催事業へのメンバーの参加状況」、「研修会参加率」、「会費の徴収」、「予算決算」、「事業計画の立案」、「自主的活動度」、「活動目的の達成度」、「自主的な活動が展開されていないと思うことがあるかどうか」の項目に関連がみられた。

次に「地域社会への貢献」については、21の変数に有意な差があり、②「リーダー、メンバー、住民間の活動に関する情報の流れ」と④「メンバーと活動時の雰囲気」の全項目、そのほか「組織形態」、「主催事業へのメンバーの参加状況」、「研修会参加率」、「会費の徴収」、「予算決算」、「事業計画の立案」、「行政からの事業依託」、「自主的活動度」、「活動目的の達成度」、「自主的な活動が展開されていないと思うことがあるかどうか」の項目に関連がみられ、「地域の人とのつながり」と同様な傾向を示していた。

第3の「運営の障害」については、16の変数に有意な差があり、「行政からの事業依託」を除く③予算や事業計画立案等の組織運営の項目(「会費の徴収」、「行政からの補助金支出の有無」、「予算決算」、「事業計画の立案」)、そのほか「組織形態」、「活動メンバー数」、「地域組織と行政の関係」、「協力事業への参加状況」、「行政が参加を呼びかけた事業へのメンバー参加状況」、「研修会参加率」、住民への広報やPR」、「地域住民の認知度」、「メンバーの活動目的、役割、方法の理解」、「事業や会議の時メンバーは楽しそうか」、「活動目的の達成度」、「自主的な活動が展開されていないと思うことがあるかどうか」の項目に関連がみられた。

第4の「健康づくり行動」については、21の変数に有意な差があり、②「リーダー、メンバー、住民間の活動に関する情報の流れ」と④「メンバーと活動時の雰囲気」の全項目、そのほか「組織形態」、「活動メンバー数」、「研修会参加率」、「会費の徴収」、「行政からの補助金支出の有無」、「事業計画の立案」、「行政からの事業依託」、「自主的活動度」、「活動目的の

達成度」、「自主的な活動が展開されていないと思う ことがあるかどうか」の項目に関連がみられ、「地域 の人とのつながり」や「地域社会への貢献」と同様 な傾向を示していた。

第5の「専門職・行政との関係」については、3変数のみに有意な差があり、「メンバーが意見や疑問をリーダーへ伝えることの可否」、「メンバーの活動目的、役割、方法の理解」、「自主的な活動が展開されていない」の項目に関連がみられた。

ここで活動成果指標の平均値についてみると、活動実態のうちの②リーダー、メンバー、住民間の(活動に関する)情報の流れについてみると、「地域の人とのつながり」と、「地域社会への貢献」ではリーダーのメンバーへの情報伝達が良好な(伝えていると回答)ほど平均点が高くなる傾向がみられ、他項目でも同様の傾向を示していた。また、④メンバーと活動時の雰囲気の各項目について、みんなが発言できる雰囲気が良好なほど平均点が高い傾向を示していた。また、支援者(行政・専門職)からの評価である「自主的活動度」についてみると、活動度が高く(80%以上)なるほど「地域の人とのつながり」と「地域社会への貢献」の平均点が高くなる傾向を示していた。

以上から、5 つの活動成果指標のうちの「地域の人とのつながり」および「地域社会への貢献」、「健康づくり行動」は、活動実態の諸項目と関連性が高いことが明示された。

Ⅳ. 考察

(1)活動成果指標について

本研究は、地域活動の評価方法の一つとして、活動によってメンバーが得られた成果を測定する指標 (活動成果指標)を開発することを目的に実施した。既存の調査等による「活動により得られたこと」を検討し、活動成果質問項目を作成した。これらの項目を用いて、因子分析を行った結果、5 つの因子が抽出された。この5 因子にそれぞれ、「地域の人とのつながり」「地域社会への貢献」「運営の障害」「健康

づくり行動」「専門職・行政との関係」と命名した。信頼性については、クロンバックのα係数を求め、5つの活動成果指標に使用する項目を決定した。これらの手続きにより、活動成果指標を尺度として使用すること、つまり項目を得点化して尺度として使用可能であることが確認され、この活動成果指標に影響する活動実態を把握することで、活動の評価、あるいは支援のポイントを探ることができる。

コミュニティの崩壊により、住民のつながりが希 薄になっているため、子育てにおいても育児の孤立 化が進行し、子育て支援の柱として子育てサークル の育成が重要となっている 6。また、高齢者の近所 づきあいの程度で、「親しくつきあっている」者の割 合は、低下しており 7、高齢者の社会参加をすすめ るための阻害要因となっている。このように「地域 の人とのつながり」は、これからの子育て支援のみ ならず町づくりに果たす役割は大きく、活動の成果 として測定できることは有効であると考えられる。 また、子育て支援の対策として、育児不安の軽減が あるが、その育児不安をやわらげる要因として、自 己肯定感を高めることが必要とされている 8)。「自分 には良いところがある」等の自己肯定感は、社会に 役立っているという「地域社会への貢献」へ通ずる ものでもあり、社会的活動は活動の活性化につなが る9 という点で、この指標の測定は有意義であると 考えられる。

(2)活動成果因子と関係する活動実態

活動成果間の関係では、「地域の人とのつながり」と「地域社会への貢献」、「地域社会への貢献」と「健康づくり行動」が高い相関を示していた。また、「地域の人とのつながり」と「地域社会への貢献」、「健康づくり行動」の3指標は、活動実態の諸項目と高い関連を示していたことは、活動実態の項目内容を踏まえて支援にあたることで、活動成果を高める可能性を持つと推測できる。特に②リーダー、メンバー、住民間の(活動に関する)情報の流れは、リーダーのメンバーへの情報伝達が「伝えている」から

斎藤他:地域組織活動の評価に関する研究(1)

「内容によって時々伝えている」、「伝えていない」と伝達状況が低くなることに合わせて、3 指標の平均点が低くなっていた。また、「メンバーが意見や疑問をリーダーに伝えることができるかどうか」でも「できる」、「できたり、できなかったり」、「できない」の順に平均点は低くなっていることから、情報がリーダーからメンバーに十分流れることが、活動成果を高める要因であると考えられる。

同様に、④の「みんなが発言できる会議の雰囲気になっているか」では、「なっている」、「どちらともいえない」、「なっていない」の順で「地域の人とのつながり」と「地域社会への貢献」の平均点が低くなっていることから、会議の場の雰囲気に配慮した支援が必要である。

本研究では、活動成果指標を作成する事を目的としたため、活動実態との詳細な関係は分析しなかった。これは、回答者が地域組織を支援する保健師であることから、再度、活動参加者(メンバー)を対象にした調査を実施し、妥当性を確認する必要があったためである。

V. 結論

地域組織の活動実態と作成した活動成果指標とは 関連性が高く、一つの活動評価の尺度として使用し、 活動レベルや地域組織の特徴を判断する、あるいは 事前事後の評価等としての有効性は高いと考えられ る。

次年度は、活動成果指標を用いたメンバー向け活動評価表試案を作成し、支援者側と活動者側の両者の差を検証し、実用化することが必要であろう。

謝辞: ご多忙のところ調査にご協力いただきました方々に深 謝いたします。

文献

1). 厚生省. 6地方計画の評価. 厚生省編. 地域における健

- 康日本 21 実践の手引き. 東京:健康・体力づくり事業財 団. 2000:75-89
- 2). 藤内修二他. わが国の子どもと親をめぐる保健福祉計画の軌跡-エンゼルプランから「健やか親子 21」まで-. 藤内修二編. 地域における「健やか親子 21」推進のために(地域における「健やか親子 21」の推進に関する研究報告書) PDF版. 東京, 2003; 13-26
- 3). 厚生省. 資料 2 計画の策定・推進・評価を容易にするためのモデル. 厚生省編. 地域における健康日本 21 実践の手引き. 東京:健康・体力づくり事業財団, 2000;111-122
- 4). 田上豊資. 市町村母子保健活動の効果的な進め方に関する研究. 市町村母子保健計画の評価に関する研究 (主任研究者 北川定謙). 厚生省心身障害研究平成 9 年度報告書. 1998: 33-54
- 5). 斉藤進他. 子育てネットワーク活動の意義とその育成支援に関する研究. 地域における子育て支援ネットワークに構築に関する研究(主任研究者 中村敬). 平成14年度厚生労働科学研究報告書(第7/11). 2003;91-102
- 6). 原田正文.「子育てネットワーク」を軸とした子育て支援 の基本戦略及び「公的子育て支援」が真に機能するため の評価軸に関する研究. 地域における子育て支援ネット ワークに構築に関する研究(主任研究者 中村敬). 平成 14 年度厚生労働科学研究報告書(第7/11). 2003; 77:90
- 7). 内閣府. 平成 10 年度「高齢者の地域社会への参加に関する 意 識 調 査 」 結 果 に つ い て . http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/a_21_01.htm
- 8). 星旦二・渡部月子. 育児不安の規定要因に関する研究. 地域における子育で支援ネットワークに構築に関する研究(主任研究者 中村敬). 平成14年度厚生労働科学研究報告書(第7/11). 2003;127-142
- 9). 斉藤進他. 子育て支援に関わる地域組織活動の育成支援 のあり方. 地域における子育て支援ネットワークに構築 に関する研究(主任研究者 中村敬). 平成 15 年度厚生労 働科学研究報告書. 2004;印刷中

表1 分析対象市町村の特性

		調査	%	分析	%
		対象		対象	
	N=	1058		363	
市町村区分					
市(人口 10 万人以上)		62	5.9	21	5.8
市(人口 5 万人以上)		74	7.0	34	9.4
市(人口5万人未満)		76	7.2	35	9.6
町		659	62.3	218	60.1
村		187	17.7	55	15.2
人口規模					
1 5,000人未満				71	19.6
2 5,000~1万人未泡	有			82	22.6
3 1万~5万人未満				154	42.4
4 5万~10万人未満				34	9.4
5 10万人以上				22	6.1
母子保健推進員と愛育班					
両方ともあり				16	4.4
母子保健推進員				131	36.1
愛育班				36	9.9
両方なし				174	47.9
無回答•不明				6	1.7

表 2 回答者の属性

	実数	%
職種		
保健師	335	92.8
栄養士	18	5.0
その他	8	2.2
N.A.·不明	2	
年齢		
20歳代	80	22.2
30歳代	118	32.8
40歳代	107	29.7
50歳代	53	14.7
60歳代	2	0.6
N.A.•不明	3	

表 3 分析対象組織の状況

	実数	%
組織形態		
委員型(母子保健推進員会、保	158	43.5
地縁型(愛育班、婦人会等)	32	8.8
自助/ライフステージ型(育児グ	17	4.7
自助/健康問題型(親の会、患	7	1.9
ボランティア/行政育成型(食生	106	29.2
ボランティア/自主型(各種のボ	8	2.2
協議体型(愛育連合会、〇〇連	24	6.6
ネットワーク型(子育てネットワー	3	0.8
その他	5	1.4
N.A.	3	0.8
主な活動の領域		
保健	266	73.3
福祉	3	0.8
教育	3	0.8
保健・福祉	72	19.8
その他	15	4.1
N.A.	4	1.1
主な活動対象		
母子	111	30.6
成人	48	13.2

高齢者	14	3.9
障害児(者)	4	1.1
住民	149	41.0
その他	33	9.1
N.A.	4	1.1
活動範囲(地理的)の広さ		
市町村内全域	300	82.6
特定の地域(小中学校区や地区	46	12.7
他市町村を含む広域	5	1.4
その他	9	2.5
N.A.	3	0.8
活動メンバー数		
20 人未満	85	23.4
20 人~50 人未満	139	38.3
50 人~100 人未満	74	20.4
100 人以上	60	16.5
N.A.	5	1.4
会則や規約の有無		
ある	297	81.8
ない	61	16.8
総会開催の有無		
開催している	289	79.6
開催していない	69	19.0

斎藤他:地域組織活動の評価に関する研究(1)

***************************************	******************************	**************
地域組織と行政の関係		
行政に依存している	158	44.4
かなり依存している	131	36.8
行政への依存は少ない	67	18.8
N.A.	7	

注:%はNA・不明を除いて算出

表 4 活動状況(事業参加)

度数 % 主催事業へのメンバーの参加状況 よく参加している 87 38.5 事業によってことなる 87 38.5 一部の人のみ参加している 44 19.5 役員のみ 2 0.9 その他 6 2.7 N.A.·不明 137 協力している事業へのメンバー参加状況 80%以上 130 44.2 60~80%未満 42 14.3 40~60%未満 45 15.3 20~40%未満 44 15.0 ~20%未満 33 11.2 N.A. · 不明 69 行政が参加を呼びかけた事業へのメンバー参加状況 80%以上 74 27.4 60~80%未満 39 14.4 40~60%未満 60 22.2 20~40%未満 66 24.4 ~20%未満 31 11.5 N.A.·不明 93 会議へのメンバーの出席状況 80%以上 152 49.2 60~80%未満 86 27.8 40~60%未満 39 12.6 20~40%未満 21 6.8 ~20%未満 11 3.6 N.A.·不明 54 地域組織活動についての研修会へのメンバーの参加率 ほとんど参加 103 30.6 半分程度 144 42.7 あまり参加していない 31 9.2 研修会はしていない 59 17.5 N.A.·不明 26

表 5 活動出況 (桂起)

表 5 活動状況(情報)	***************************************	1018940000000000000000000000000000000000
リーダーのメンバーへ情報伝達		~~~~~
伝えている	180	51.
内容によって時々伝えている	126	35.8
伝えていない	19	5.4
わからない	27	7.7
N.A.・不明	11	
メンバーがリーダーへ意見や疑問を伝え	えることの可る	5
できる	171	48.4
できたり、できなかったり	126	35.7
できない	16	4.5
わからない	40	11.3
N.A.•不明	10	
住民への広報や PR		
している	309	85.6
していない	52	14.4
N.A.•不明	2	
住民の意見や要望を聞く活動		
している	194	53.6
していない	143	39.5
わからない	25	6.9
N.A.·不明	1	
地域住民の認知度		
かなり知られている	79	21.9
少し知られている	220	60.9
あまり知られていない	61	16.9
まったく知られていない	1	0.3
N.A. • 不明	2	
活動に住民の意見を反映しているか		
よく反映している	37	10.4
やや反映している	237	66.6
あまり反映していない	78	21.9
全く反映していない	4	1.1
N.A.·不明	7	

表 6 活動状況(運営)

表 7 活動状況 (メンバーと雰囲気)

衣 0 冶划1人儿(建古)			女 / 加助1Aル(アノハ C分四×	67	
	度数	%		度数	%
会費の徴収			メンバーの活動目的、役割、方法の理解		
集めている	153	42.5	よくわかっている	121	34.8
会費は決まっていないが、必要に	24	6.7	半分くらいわかっている	177	50.9
集めていない	183	50.8	少しわかっている	47	13.5
N.A.•不明	3		まったくわかっていない	3	0.9
行政からの補助金			N.A.•不明	15	
あり	206	59.4	リーダーはメンバーの意見を尊重している。	51	
なし	113	32.6	はい	260	77.2
その他	28	8.1	いいえ	8	2.4
N.A. · 不明	16		わからない	69	20.5
予算決算			N.A.·不明	26	
全部自分たちでしている	73	21.1	リーダーとメンバーとの信頼関係		
ほぼ自分たちでしている	60	17.3	ある	231	69.0
半々ぐらい	23	6.6	ない		3.6
7、8割、行政がしている	46	13.3	わからない	92	27.5
全部行政でしている	144	41.6	N.A.•不明	28	
N.A.·不明	17		事業や会議の時、メンバーは楽しそうか		
事業計画の立案			はい	228	65.0
全部自分たちでしている	45	12.6	どちらともいえない	120	34.2
ほぼ自分たちでしている	81	22.8	いいえ	3	0.9
半々ぐらい	56	15.7	N.A.•不明	12	
7、8割、行政がしている	85	23.9	みんなが発言できる会議の雰囲気		
全部行政でしている	89	25.0	なっている	233	65.8
N.A.·不明	7		どちらともいえない	106	29.9
行政からの事業委託			なっていない	8	2.3
あり	90	25.8	会議がない	7	2.0
なし	259	74.2	N.A.・不明	9	
N.A.•不明	14		注:%はNA・不明を除いて算出		

斎藤他:地域組織活動の評価に関する研究(1)

表 8 活動評価

F	 要数	%
	z. XX	
~20%未満	73	22.3
20~40%未満	72	22.0
40~60%未満	69	21.1
60~80%未満	54	16.5
80%以上	59	18.0
N.A.•不明	36	
活動目的の達成度		
~20%未満	10	3.1
20~40%未満	41	12.8
40~60%未満	78	24.4
60~80%未満	107	33.4
80%以上	84	26.3
N.A 不明	43	
自主的な活動が展開されていないと思う	ことがあるか	
ある	108	30.1
時々ある	179	49.9
ない	72	20.1
N.A. • 不明	4	10000000000000000000000000000000000000

表 9 活動成果の因子負荷量

	成分 1	2	3	4	5	6	共通性
人とのつながりを大切にするようになった	0.882	0.210	0.024	0.089	-0.013	-0.030	0.831
人との出会いが楽しくなった	0.874	0.212	-0.006	0.125	-0.051	-0.037	0.829
進んで外に出るようになった	0.867	0.103	0.027	0.099	-0.014	0.001	0.774
声かけなど人とのつながりを意識するようになった	0.810	0.327	-0.086	0.088	0.035	-0.035	0.782
声をかけあうようになった	0.800	0.342	-0.095	0.087	0.040	-0.018	0.775
親しくつきあえる友人ができた	0.784	0.121	0.040	0.160	-0.077	-0.103	0.673
地域に溶け込めたと思うようになった	0.683	0.297	0.025	0.177	0.124	-0.105	0.613
多くの子育てをみて、子育てが苦ではなくなった	0.442	0.263	-0.223	-0.282	0.328	-0.200	0.541
新しい知識や技能を学ぶことができた	0.417	0.314	~0.001	0.388	-0.122	-0.099	0.448
地域の人たちに感謝された	0.269	0.769	0.078	0.212	-0.096	0.056	0.726
地域や社会に貢献することができた	0.288	0.765	0.074	0.246	-0.079	-0.037	0.742
行政から活動を評価されるようになった	0.255	0.691	0.117	0.188	0.043	-0.095	0.602
行政の役割を理解できるようになった	0.299	0.667	-0.184	0.244	0.015	0.043	0.630
地域活動等に自発的に参加するようになった	0.346	0.662	0.177	0.199	-0.014	-0.015	0.629
地域での活動のPRをするようになった	0.392	0.615	0.069	0.258	0.101	-0.077	0.620
積極的に子育で中の親子の支援をするようになった	0.421	0.456	-0.243	-0.288	0.355	-0.090	0.661
人間関係、その他の理由で抜けていく人がいた	0.018	-0.005	0.776	0.020	0.045	-0.069	0.609
組織の運営が難しかった	0.050	-0.026	0.725	-0.002	0.067	0.198	0.573
人間関係が難しかった	0.052	0.190	0.721	0.057	0.251	0.102	0.635
人間関係などで活動に自信をなくした	-0.030	-0.013	0.691	0.103	0.325	0.025	0.596

日本子ども家庭総合研究所紀要 第40集

			,				
活動が義務的、形式になり、楽しくなくなった	-0.142	0.059	0.681	0.050	0.141	0.398	0.668
他の役員の協力が得られなかった	-0.142	0.234	0.449	0.050	0.394	-0.004	0.434
自分の健康管理をしっかりするようになった	0.194	0.219	0.008	0.816	0.049	-0.020	0.755
健康のために運動するようになった	0.063	0.145	0.076	0.790	0.085	-0.082	0.669
健康についての関心が高くなった	0.197	0.311	0.035	0.785	-0.002	0.003	0.753
ボケない人生を送りたいと思うようになった	0.125	0.209	0.069	0.763	0.039	0.062	0.652
専門職の援助が得られなかった	0.002	-0.131	0.198	0.040	0.868	0.078	0.817
行政の援助が得られなかった	-0.012	-0.108	0.221	-0.020	0.841	0.111	0.781
専門職との考え方との違いに気づいた	0.064	0.008	0.341	0.035	0.542	0.146	0.437
活動が忙しく家族が犠牲になった	0.012	0.328	0.177	0.174	0.455	0.135	0.395
独自の活動ができなかった	-0.098	-0.029	0.151	-0.043	0.123	0.865	0.798
地域の人たちに理解してもらえなかった	-0.174	-0.061	0.341	-0.030	0.318	0.643	0.666
回転後の負荷量平方和	5.990	4.163	3.401	3.270	2.744	1.548	21.116
因子寄与率(%)	18.718	13.011	10.628	10.218	8.574	4.838	65.987

因子抽出法: 主成分分析

回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法

表 10 活動成果因子の解釈と項目

因子 1 地域の人とのつながり α= .94 人とのつながりを大切にするようになった 人との出会いが楽しくなった 進んで外に出るようになった 声かけなど人とのつながりを意識するようになった 声をかけあうようになった 親しくつきあえる友人ができた 地域に溶け込めたと思うようになった

因子 2 地域社会への貢献 α= .89 地域の人たちに感謝された 地域や社会に貢献することができた 行政から活動を評価されるようになった 行政の役割を理解できるようになった 地域活動等に自発的に参加するようになった 地域での活動の P R をするようになった

因子3 運営の障害 $\alpha = .82$

人間関係、その他の理由で抜けていく人がいた 組織の運営が難しかった

人間関係が難しかった

人間関係などで活動に自信をなくした 活動が義務的、形式になり、楽しくなくなった 他の役員の協力が得られなかった

因子 4 健康づくり行動 α= .86 自分の健康管理をしっかりするようになった 健康のために運動するようになった 健康についての関心が高くなった ボケない人生を送りたいと思うようになった

因子5 専門職・行政との関係 α=.82 専門職の援助が得られなかった 行政の援助が得られなかった 専門職との考え方との違いに気づいた

表 11 成果指標間の Pearson の相関係数

	地域の人とのつながり	地域社会への	運営の障害	健康づくり行動	専門職・行政との 関係
地域の人とのつながり	1				
地域社会への貢献	0.64***	1			
運営の障害	-0.04	0.10	1		,,
健康づくり行動	0.36***	0.53***	0.15 **	1	
専門職・行政との関係	-0.03	-0.01	0.48***	0.03	1

表 12 カテゴリー別活動成果の平均点

	地域の人	地域社会	運営の障	健康づくり	専門職·行
	とのつな	への貢献	害(36点)	行動(24	政との関
	がり(42	(36 点)		点)	係(18 点)
	点)				
組織形態	***	**	***	***	n.s.
委員型(母子保健推進員会、保健協力員会等)	29.1	24.6	17.1	16.6	7.7
地緣型(愛育班、婦人会等)	30.3	25.3	19.4	17.5	7.9
自助/ライフステージ型(育児グループ等)	35.5	22.2	16.5	12.1	7.3
自助/健康問題型(親の会、患者会等)	30.6	21.0	15.4	10.0	7.3
ボランティア/行政育成型(食生活改善推進協議会等)	31.4	26.4	20.4	18.4	7.8
ボランティア/自主型(各種のボランティアグループ等)	35.1	27.7	18.4	17.3	8.0
協議体型(愛育連合会、〇〇連絡協議会)	30.8	26.1	18.5	18.3	8.0
ネットワーク型(子育てネットワーク等)	36.7	22.0	17.0	13.7	6.3
その他	30.6	23.2	17.4	16.8	7.4
活動メンバー数	n.s.	n.s.	**	***	n.s.
20 人未満	31.5	25.1	16.5	15.4	7.8
20 人~50 人未満	29.8	24.4	18.7	16.7	7.7
50 人~100 人未満	30.1	25.4	19.1	17.9	7.6
100 人以上	31.6	26.1	18.9	18.7	7.7
地域組織と行政の関係	***	n.s.	*	n.s.	n.s.
行政に依存している	29.9	24.5	17.7	16.7	7.6
かなり依存している	29.9	25.1	19.2	17.4	8.0
行政への依存は少ない	33.1	25.9	18.0	16.6	7.3
主催事業へのメンバーの参加状況	**	*	n.s.	n.s.	n.s.
よく参加している	32.9	26.7	18.1	17.3	7.6
事業によってことなる	31.6	26.1	19.0	18.2	7.5
一部の人のみ参加している	28.9	23.6	19.9	17.0	7.9
役員のみ	31.5	25.5	21.0	19.5	11.0
その他	28.8	26.0	19.5	17.2	7.2
協力事業への参加状況	n.s.	n.s.	***	n.s.	n.s.
~20%未満	29.3	23.5	20.2	16.8	7.5
20~40%未満	30.7	25.8	19.9	17.7	7.5
40~60%未満	30.2	25.8	20.1	18.3	8.1
60~80%未満	31.2	25.0	17.8	17.5	7.4
80%以上	31.2	25.9	16.9	16.9	7.7
	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.
~20%未満	30.2	25.0	20.3	18.2	7.7
20~40%未満	29.8	25.1	19.6	17.5	7.6
40~60%未満	29.9	24.7	18.0	17.4	8.3
60~80%未満	31.4	25.5	18.1	18.2	7.9
80%以上	31.9	26.4	17.7	17.2	7.8
会議へのメンバーの出席状況	n.s.	n,s.	n.s.	n.s.	n.s.
~20%未満	31.4	26.1	21.0	19.7	8.6
20~40%未満	29.4	24.2	19.5	16.7	7.6

		***************************************	***************************************		***************************************
40~60%未満 60~80%未満	28.7	23.8	18.0	16.4	7.7
80%以上	30.2 31.0	25.6 25.5	18.4	17.3	7.8
研修会参加率	**	***	17.9 **	17.2 ***	7.6
ほとんど参加	32.3	26.8	17.3	17.7	n.s. 7.7
半分程度	30.3	25.6	18.6	17.7	7.7 7.7
あまり参加していない	28.0	23.4	20.7	16.0	7. <i>7</i> 8.1
研修会はしていない	30.3	22.6	17.7	15.1	7.4
リーダーのメンバーへ情報伝達・	***	***	n.s.	***	
伝えている	32.5	26.5	18.3	17.7	n.s. 7.5
内容によって時々伝えている	29.4	24.2	18.8	16.8	7.5 7.9
伝えていない	24.8	20.9	17.0	15.6	7.5 7.6
わからない	27.1	22.1	17.3	14.3	7.0 8.0
メンバーが意見や疑問をリーダーへ伝えることの可否	***	***	n.s.	***	*
できる	32.3	26.3	18.1	17.7	7.4
できたり、できなかったり	29.1	24.6	19.0	16.6	8.1
できない	26.6	21.8	18.8	17.9	8.1
わからない	29.0	22.7	16.8	15.0	7.4
住民への広報や PR	***	***	**	***	n.s.
している	31.1	25.6	18.6	17.3	7.7
していない	26.9	21.8	16.6	15.0	7.5
	**	***	n.s.	***	n.s.
していない	29.2	23.6	18.5	16.1	7.6
している	31.5	26.2	18.2	17.8	7.8
わからない	31.4	25.1	18.0	15.8	7.8
地域住民の認知度	**	***	*	***	n.s.
かなり知られている	31.4	25.9	17.1	17.8	7.3
少し知られている	30.9	25.5	18.8	17.2	7.8
あまり知られていない	28.4	22.5	18.1	15.3	7.8
※「まったく知られていない」を除いて検定					
舌動に住民の意見を反映しているか	***	***	n.s.	***	n.s.
よく反映している	34.8	27.5	17.1	17.4	7.1
やや反映している	31.0	25.6	18.3	17.4	7.8
あまり反映していない	28.0	22.9	18.8	16.2	7.7
全く反映していない	22.5	21.0	20.3	10.3	7.5
会費の徴収	**	*	***	***	n.s.
集めている	31.4	25.9	19.7	18.2	7.7
会費は決まっていないが、必要に応じて集めている	32.8	25.7	18.6	16.0	8.0
集めていない	29.6	24.4	17.0	16.2	7.7
行政からの補助金支出の有無	n.s.	n.s.	**	**	n.s.
出している	30.5	25.4	18.9	17.6	7.6
出していない	31.0	25.1	17.4	16.1	7.8
その他	30.4	23.7	16.9	16.1	7.5
予算決算	**	*	*	n.s.	n.s.
全部自分たちでしている	32.8	26.1	18.7	17.6	7.5
ほぼ自分たちでしている	30.9	26.2	19.6	17.8	7.9
半々ぐらい	31.2	26.1	19.2	17.6	7.8
7、8割、行政がしている					8.1

斎藤他:地域組織活動の評価に関する研究(1)

全部行政でしている	29.1	24.2	17.3	16.4	7.4
事業計画の立案	***	***	**	**	n.s.
全部自分たちでしている	33.7	26.1	18.3	16.5	7.3
ほぼ自分たちでしている	32.5	26.6	18.6	17.6	7.7
半々ぐらい	31.0	26.0	19.3	18.3	7.8
7、8割、行政がしている	29.2	24.3	18.8	17.3	7.5
全部行政でしている	28.3	23.4	16.7	15.7	7.9
行政からの事業依託	n.s.	*	n.s.	***	n.s.
委託している	31.4	26.2	19.1	18.4	8.1
していない	30.4	24.8	18.0	16.5	7.5
メンバーの活動目的、役割、方法の理解	***	***	***	***	**
よくわかっている	33.7	27.2	16.8	17.2	7.3
半分くらいわかっている	29.6	24.6	19.2	17.4	7.9
少しわかっている	26.5	22.4	19.3	16.1	7.9
まったくわかっていない	27.3	17.3	16.0	4.0	4.0
メンバーの意見の尊重	***	***	n.s.	***	n.s.
はい	31.6	25.9	18.5	17.5	7.7
いいえ	23.8	21.2	19.7	15.5	6.5
わからない	27.5	22.6	17.5	15.5	7.4
リーダーとメンバーとの信頼関係	***	***	n.s.	**	n.s.
はい	32.0	26.0	18.2	17.5	7.6
いいえ	23.7	21.8	18.9	14.6	7.9
わからない	28.0	23.3	18.5	16.2	7.5
事業や会議の時メンバーは楽しそうか	***	***	*	**	n.s.
はい	32.3	25.9	17.8	17.5	7.6
どちらともいえない	27.6	23.7	19.2	16.3	7.9
いいえ	17.3	16.5	18.3	11.7	8.0
みんなが発言できる会議の雰囲気	***	**	n.s.	*	n.s.
なっている	31.7	25.8	17.9	17.3	7.6
どちらともいえない	28.6	23.7	19.1	16.6	7.8
なっていない	26.1	22.3	19.9	17.9	8.0
会議がない	26.7	24.5	19.0	12.8	7.3
自主的活動度	***	***	n.s.	**	n.s.
~20%未満	27.0	22.2	17.5	15.9	7.4
20~40%未満	28.8	24.3	18.1	16.7	7.8
40~60%未満	31.1	26.2	19.8	18.5	8.0
60~80%未満	33.0	27.5	17.8	17.3	7.4
80%以上	34.2	26.4	18.5	17.1	7.5
活動目的の達成度	***	***	*	**	n.s.
~20%未満	25.0	18.0	15.2	13.3	6.8
20~40%未満	28.1	23.4	18.6	16.0	7.8
40~60%未満	28.5	23.6	19.2	17.2	8.0
60~80%未満	31.7	26.3	18.6	17.3	7.7
80%以上	33.3	27.2	17.6	17.8	7.5
ョ 自主的な活動が展開されていない	***	***	**	**	*
ある	28.0	22.9	17.9	15.9	7.5
時々ある	30.6	25.7	19.0	17.4	8.0
ない	34.2	26.8	16.9	17.6	7.1

表 13 活動状況変数と活動成果指標の関連性

		地域の人	地域社会への貢献	運営の障 害	健康づくり 行動	専門職・行 政との関 係
		がり				
1	組織形態	***	**	***	***	n.s.
2	活動メンバー数	n.s.	n.s.	**	***	n.s.
3	地域組織と行政の関係	***	n.s.	*	n.s.	n.s.
4	主催事業へのメンバーの参加状況	**	*	n.s.	n.s.	n.s.
5	協力事業への参加状況	n.s.	n.s.	***	n.s.	n.s.
6	行政が参加を呼びかけた事業へのメンバー参加状況	n.s.	n.s.	*	n.s.	n.s.
7	会議へのメンバーの出席状況	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.
8	研修会参加率	**	***	**	***	n.s.
9	リーダーのメンバーへ情報伝達	***	***	n.s.	***	n.s.
10	メンバーが意見や疑問をリーダーへ伝えることの可否	***	***	n.s.	***	*
11	住民への広報や PR	***	***	**	***	n.s.
12	住民の意見や要望を聞く活動	**	***	n.s.	***	n.s.
13	地域住民の認知度	**	***	*	***	n.s.
14	活動に住民の意見を反映しているか	***	***	n.s.	***	n.s.
15	会費の徴収	**	*	***	***	n.s.
16	行政からの補助金支出の有無	n.s.	n.s.	**	**	n.s.
17	予算決算	**	*	*	n.s.	n.s.
18	事業計画の立案	***	***	**	**	n.s.
19	行政からの事業依託	n.s.	*	n.s.	***	n.s.
20	メンバーの活動目的、役割、方法の理解	***	***	***	***	**
21	メンバーの意見の尊重	***	***	n.s.	***	n.s.
22	リーダーとメンバーとの信頼関係	***	***	n.s.	**	n.s.
23	事業や会議の時メンバーは楽しそうか	***	***	*	**	n.s.
24	みんなが発言できる会議の雰囲気	***	**	n.s.	*	n.s.
25	自主的活動度	***	***	n.s.	**	n.s.
26	活動目的の達成度	***	***	*	**	n.s.
27	自主的な活動が展開されていない	***	***	**	**	*
	(参考∶有意な変数の数)	21	21	16	21	3